

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103482
法人名	医療法人 友志会
事業所名	グループホーム 玉里
所在地	鹿児島県鹿児島市玉里団地二丁目5番1号 (電話) 099-220-3115
自己評価作成日	平成27年2月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同一敷地内に内科系のクリニックがあり、医師2名と看護師、薬剤師がおり医療面のサポートが受けられるので、安心して利用者を預けられると、御家族から喜ばれている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL <http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成27年3月2日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当ホームは母体医療機関と同敷地内にあり24時間医療連携体制が整っており、安心して過ごせる事業所である。
・本人や家族・職員・看護師・かかりつけ医で話し合いを行いながら、重度化や終末期・看取りも行っている。
・運営推進会議は定期的に行い、ホームの状況報告や外部評価結果報告・地域の高齢化の状況等を話し合い、毎回、テーマを決めて話し合い運営に活かしている。
・自宅にいるときからの馴染みの関係が途切れないように、面会の時などはお茶を飲みながらゆっくりできるように配慮している。
・災害時に近隣住民の避難場所として受け入れの検討をしたり、避難訓練を年2回消防署の立会で行っている。3階からの梯子車による模擬訓練を実施している。
・食事は一日30品目の食材を確保し献立を工夫している。食事前の嚥下体操や食後の口腔ケアにも力をいれている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は玄関・施設内に提示しモ目配り・気配り心配りをミーティングで話し日々実施できるようにしている。	理念は玄関・事務所に掲示している。モットーを設けており朝のミーティング時に確認、共有しながら日々のケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人員として日常的に交流している	中学生の職場体験学習の受け入れ・友人の面会などや朝夕の挨拶をしている、地域周辺の掃除をしたり毎日の食材を地域の商店やスーパーで食材の購入などをして交流を図っている。	町内会に加入し清掃や夏祭りに参加している。中学生の職場体験やボランティアの受け入れも行っている。日常的にも公園の散歩・買い物時の挨拶等地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	地域の方から認知症の介護方法、申請の仕方などいろいろな相談を受けている、施設長が対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長や民生委員の方が大変協力的であり、意見を下さるのでサービス向上に役立っている。	会議は定期的に行われ、ホームの状況報告や外部評価の結果報告・地域の高齢化の事等を、毎回テーマを決めて「在宅生活を長く続けていくにはどうするか」等を話し合い、運営に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>定期的に介護相談員を受け入れている、生活保護の方が入居して居られるので保護第1課の方が来られた時に必要に応じて相談している。</p>	<p>市の担当者と電話や直接出向いたり、ホームへの来訪時に、報告や相談を行って、協力関係を築くように努めている。介護相談員も受け入れている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束を行わないということを定期的に職員は研修し正しくそれを認識しており身体拘束のないケアを実践している。</p>	<p>定期的に身体拘束について、事例を出し勉強会を行っている。契約時にホームの方針として、身体拘束をしないケアについて説明し、昼間は玄関の施錠もなく開放されている。外に出たい利用者は職員がそれとなく付き添うようにして散歩をしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日々のケアの中でどのような事が、虐待にあたるか申し送りおよび研修の時に話す機会を持ち防止に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度を現在利用している入居者の方は居られませんが、成年後見制度について学ぶ機会を持ち活用できるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>時間をかけて丁寧に説明している、特に利用旅金や入居によるリスク・重度化・看取りについての対応、医療体制の実情について詳しく説明している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>職員は努めて利用者と話す機会を持ち思いを聞くようにしている、また介護相談員の方の御意見や家族会での御意見も参考にしている。</p>	<p>利用者の思いは日常の会話で把握し、家族からは家族会のときや電話や面会の時、日常の状況や受診の報告などをして意見が出やすいように話しかけ、思いを聞き、運営に反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎朝のミーティングは入居者の状態の報告ばかりではなく、職員の意見や提案を聞き、運営に反映させている。</p>	<p>管理者はミーティングや個別に面談をしたり、日常業務の中で職員と気軽に相談や話し合いをしている。意見や提案は一人ひとりの考えを大切にして運営に反映している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>家庭との両立がしやすいよう希望する日に休めるよう配慮し、職員が働きやすいようにしている、またすべての職員が希望通り年休を取得している。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的な法人内での研修及び研修案内（法人外）によりそれぞれの段階に応じた研修を受講する機会を確保している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア会議やグループホーム連絡協議会に加入し研修に参加している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族からの情報や本人の困っていることや要望に耳を傾け、気持ちの表現がしにくい方からは表情や反応から思いを把握する努力をし、声かけを行い安心感を持ってもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族や本人の希望や意向を聞き事業所としてはどのような対応ができるか常に話あっている、また家族へは面会時、職員の方から要望や困りごとのヒヤリングに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の希望を第一に考えどのようなサービスが必要か適時話しあっている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや気持ちを十分に理解することに努め、日々の暮らしの中でケアを通して共に支え安心感のある関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会も多くあり、食堂や居室で一緒に時間を共有しながら、共に利用者を支えるための知恵を出し合っている関係保持に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出を希望される時は御家族の協力をお願いしている（墓参り美容院・デパートなど）	自宅にいるときからの馴染みの関係が途切れないようにして、面会があった時などお茶を飲みながらゆっくりできるようにしている。美容室など家族の協力で行ったりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性及び個性または関係性を常に把握し、必要に応じてスタッフが間に入り、スムーズに会話ができるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	殆どの方が看取りを希望されているため途中でサービス利用が終了することはないが、死亡退去及び転院後も御家族の相談に応じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者一人ひとりの思いや希望を把握出来るように日々努めている、思いをうまく伝えられない方は表情やしぐさ、普段の会話から判断できるように努めている。	個別に思いを聞いて、一人ひとりに対応できるように取り組んでいる。うまく伝えることができない利用者には、しぐさや表情で把握したり家族に聞いたりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活暦を本人・御家族の話しを聞くことにより把握し、事業所としてどのように対応し以前の暮らしに近づけるか検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設のスケジュール主体ではなく入居者の方ご自身のペースで過ごせるよう一人ひとりの好み習慣、残存能力等の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画作成時は御家族、本人の要望や希望を聞き職員の意見や気づきを参考にして作成している。またモニタリングは3ヶ月毎に実施している。	本人や家族の意向や課題を把握して計画を作り同意を得ている。3ヶ月毎にモニタリングを行い見直しのところがあればその都度検討して常に現状に即したケアに取り組めるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護や介護計画に反映させる為、入居者一人ひとりの状況や変化を記録し職員間での情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	適時、協力医院の24時間対応や往診・他科受診などの対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーへの買物や近くの公園への散歩、デイサービスの敬老会参加などの支援を行い安心して楽しめるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一敷地内にある母体病院への受診付き添いや他科受診時の御家族の同伴、職員の付き添いなど状況に応じて対応している。	かかりつけ医の継続の確認をして希望通りにしている。家族が受診に同行したり、職員が支援している。協力医の週2回往診があり、緊急時の対応も連携が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>施設長が薬剤師、管理者が看護師であるため、相談しやすく介護と医療の両面から入居者を支える体制が整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者の方が入院された際は母体クリニック主治医より紹介所や各病院とサマリー交換や情報提供を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>既に何件もの看取りを行い、重度化に伴う終末期については母体病院と薬剤師である施設長、看護師である管理者、職員が連携し本人や御家族の意向を随時確認しながら支援する体制がある。</p>	<p>契約時に重度化にむけての話しをしている。今まで看取りの事例もあり、医療との連携や家族の協力を貰いながら取り組んでいく体制になっている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>事故発生時のマニュアルを参考にして勉強会や訓練をしている。応急手当は主治医より指導を受け実践力を身につけている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>火災時などの災害時には地域住民に協力を頂けるようお願いしている、避難訓練は昼夜間に対応した方法を訓練している。</p>	<p>避難訓練を年2回消防署の立会で行っている。梯子車による3階からの避難模擬訓練も行われている。地域住民の協力もある。通報装置の点検や災害対策用の器具も整っている。災害用の水や米・乾物等の備蓄品もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の人格を尊重しプライバシーを損なわず、否定的言葉を使用しないよう徹底しミーティングでも話しあい研修も行っている。	勉強会で人格を尊重することを学び、特に言葉には注意して声かけをしたりして、馴れ合いにならないように取り組んでいる。職員間で注意し合ったり、ミーティングでも話し合いを設けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でケアを優先することなく本人が何をしたいか確認し、また表情やしぐさで思いを受けとめられるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の生活を本人の希望に添って（テレビを観たり、居室で過ごしたり）過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	髪のカットは御家族の許可を得て職員が本人の希望、個性を大事にしたカットを心がけて行っている、また御家族が美容室に連れて行ってくださっている方もおられる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は個々にあった大きさに食べ易く切ったり、軟らかく炊いたり、目で楽しめるように彩りや盛り付けを大事にしました一緒に食事前の準備や片付けなど行っている。	栄養面を考え食事が美味しく楽しく食べられるように、一日30品目の食材を確保し献立を工夫している。食事前の嚥下体操を毎日行ない、食後の口腔ケアにも力をいれている。利用者の力量に合わせて準備や片付けを職員と一緒にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは一日30品目を確保するよう献立を作成し、また入居者の体調や状態を観察しながら調整を行い、水分も必要量摂れるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後見守り及び一部介助で口腔ケアを行い、就寝時は義歯の洗浄をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	本人の状態に合わせて、居室でもポータブルトイレを使用したり定期的にトイレ誘導を行っている。	個別に排泄記録をその都度実施して、排泄パターンを知り、様子観察や声かけを行い自立支援に向けてトイレへの介助をしている。服薬をせず自然に排泄が行われるように果物やヨーグルトなどでコントロールできるように工夫もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩やレクなどの適度な運動やヨーグルト、水分補給など工夫し自然排便に取り組んでいる、それでも困難な時は主治医に相談している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	日曜日以外は毎日入浴の準備がなされている、職員はバイタルを観て声かけし、拒否ある時は、無理強いしないで再度声かけをしたり、翌日にしたりと、気持ちよく入って頂けるようにしている。	入浴は週3回を基本にして、毎日入りたい利用者には対応できるようにしている。シャワー浴や足浴の対応もできるようにしている。入浴を嫌がる人は無理強いしないようにして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースにあわせ、食堂のソファや居室でくつろいでもらい昼寝ができるように見守り対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は個々の薬の目的を周知し確実に服薬ができるよう努めまた薬の変更があった時はその都度話し合いの場を設け服薬漏れがないように記録している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人ひとりが楽しめ張り合いのある日常が送れるように支援している。(テレビ・週刊誌・掃除・洗濯タタミ・レクなど)		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	歩行や外気浴など本人の気持ちを尊重し体調を観ながら実施している、外出は御家族の協力を得て、本人の希望に応じた外出ができるよう心がけている。	近くにある公園まで散歩に出かけたり、近隣の商店やスーパーマーケットと一緒に買い物を楽しんでいる。季節に応じて花見や木市など外出できる機会を多く計画している。家族と墓参りや外食にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、お金の自己管理をしている方はおられないが、希望があれば職員と一緒に管理ができるように配慮している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族にいる家族など本人がゆっくり話しができるように支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を食堂、玄関に飾ったり行事毎に雛人形や鯉のぼりなどを飾り季節を感じて頂けるよう配慮している、日差しはカーテンで小まめに調節し窓の開閉で温度、換気をしている。	ホールは広く明るく、温度や湿度の調整がされている。季節を感じさせ飾り付けや利用者と一緒に取り組んだ作品がある。ソファも多く配置され、好みの場所でゆっくりくつろげるようにしてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたい方は居室でゆっくり過ごされるよう見守りをし、食堂で気のあった同士で話しができる雰囲気作りに努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で慣れ親しんだものを持ち込んで頂き、居心地よく過ごせられるように配慮している	居室はベッドや整理ダンス・洗面台が設置されており、自宅から小型ミシンや位牌など、好みのもが持ち込まれている。家族の写真・レクリエーションで作った作品等も飾られており、居心地のいい落ち着ける部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体能力に合わせて介助を行いまたトイレや浴室にある手すりなどを使い安全に安心して移動ができるように工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない